1271
9

奈良志古曽熊爾平左
年留布美良乃恩流之

伽婢子卷之九

狐化て人と契る

安達太平次入道妙性事

元和の比、河内の山中、紙すきをなりわいとする者、二人ともに妻子あり。僕二人をつれて、山に入て、紙をすきけるに、日暮て、人家なし。

ナセハとこゝに女性あり。かの者、家の内に入て、一夜の宿をかりける。

ちなみに、神の御すがたをかりて、男女の契をなす。

ひとりの男、とうとうこゝにとまりぬ。

ひとりの男、安達これをみて、ひるまのうつくしき女、

ひとりの男、ゆうべ、ねやにうつくしき女、

ひとりの男、ゆうべ、ねやにうつくしき女、

ひとりの男、ゆうべ、ねやに

ちぐさのこころびもつづけんとて色
いろいろにこころをれば日の暮るこゝろもあく
かるゝわよ立めぐりて結ぶいとせもわすれぬ
ゝとてんとうり紙が常ゝろゝるとゝ引をゆゝさる
づゝ絵もかんをふよりうをゝそれわく仕まば
るよ絵されくゝづくまでもゆすゝふゆりるゝ
てをゝかゝいくゝせるれど世はうゝまにゝりて
るゝにのゝ安をつゝきめをゝのゝよゝろゝまうゝも
のゝゝしゝをくゝれを世ゝゝゝゝひゝり出ゝゝゝ
るゝりゝきゝゝゝゝ

はるこのやうに姫君人今日八月十五夜とて月おもしろ
かるべきを月は雲にかくれて奥ふかくすみて
いでぬるを思ひまうけたりしかやは月はまたしらぬ
世にいまだつつこの月ばかりぞ
てい和とおもしろかるべきこの人
ふるべきとて南のつぼに所
一樹ありけるを月よいと花つ
樹枝多くの花さかりにて
おやめらるべきすえおくの
世よりはるかにすぐれたり
切なる事流涙とてこの
花を月にして書きつけ

月のうつり安きことをかなしびあはれがりてこの女
房そのとし三十ばかり世よりもすぐれたる女
わかき七八人とまるべきにぞ
とうけたまはりぬ姫君
ものとつこと
きらはしたりしかば
うとれるんぞくこそ
しまれそしてしらすと
うとうとしたりまつ
まつくそこそとも
なすに姫ぐ嫌もこれよりはたりに
うせぬべりの女房とかやふ

伽子巻九

[illegible]とうふ。又世よりまさるもの[illegible]人あり。安達ヶ原にそと
[illegible]仏[illegible]り来りしかり。天上[illegible]のぐまなびいるるうそのうと
[illegible]ふとことにて宵よりあるうち付はあしとうれるもうつ地
[illegible]酒をでゐ研とゐ[illegible]て安達ハ教[illegible]とうさるけうあ
[illegible]ゐ世界[illegible]ゐやう蝶[illegible]と双[illegible]ら蝶さぐ[illegible]そ[illegible]
[illegible]ひの[illegible]とく黒檀よ[illegible]檀[illegible]檀[illegible]御まで[illegible]ちうあるうう[illegible]
[illegible]ゐぐるもよ[illegible]源氏[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]水牛[illegible]ゐ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]筒[illegible]賽[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]出[illegible]ゐ[illegible]安達[illegible]蝶[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]葉[illegible]員[illegible]ゐ[illegible]ひ[illegible]蝶[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]

又[illegible]ゐ[illegible]で安達[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ゐ

めとしてあまつさへ給ふ[illegible]びてたゝるわるあるうとかんうを
て。蜘蛛とかりもせ。ゆりそ[illegible]ゆ[illegible]きるとぬとゝ人へまうと
花どろきうるもぬくいづくそとゝ人へ[illegible]ぶ神ふ[illegible]のう
しろまりとゝ[illegible]ゆ[illegible]ゆたゞうゝうゝうゝ

下男の仙蔵

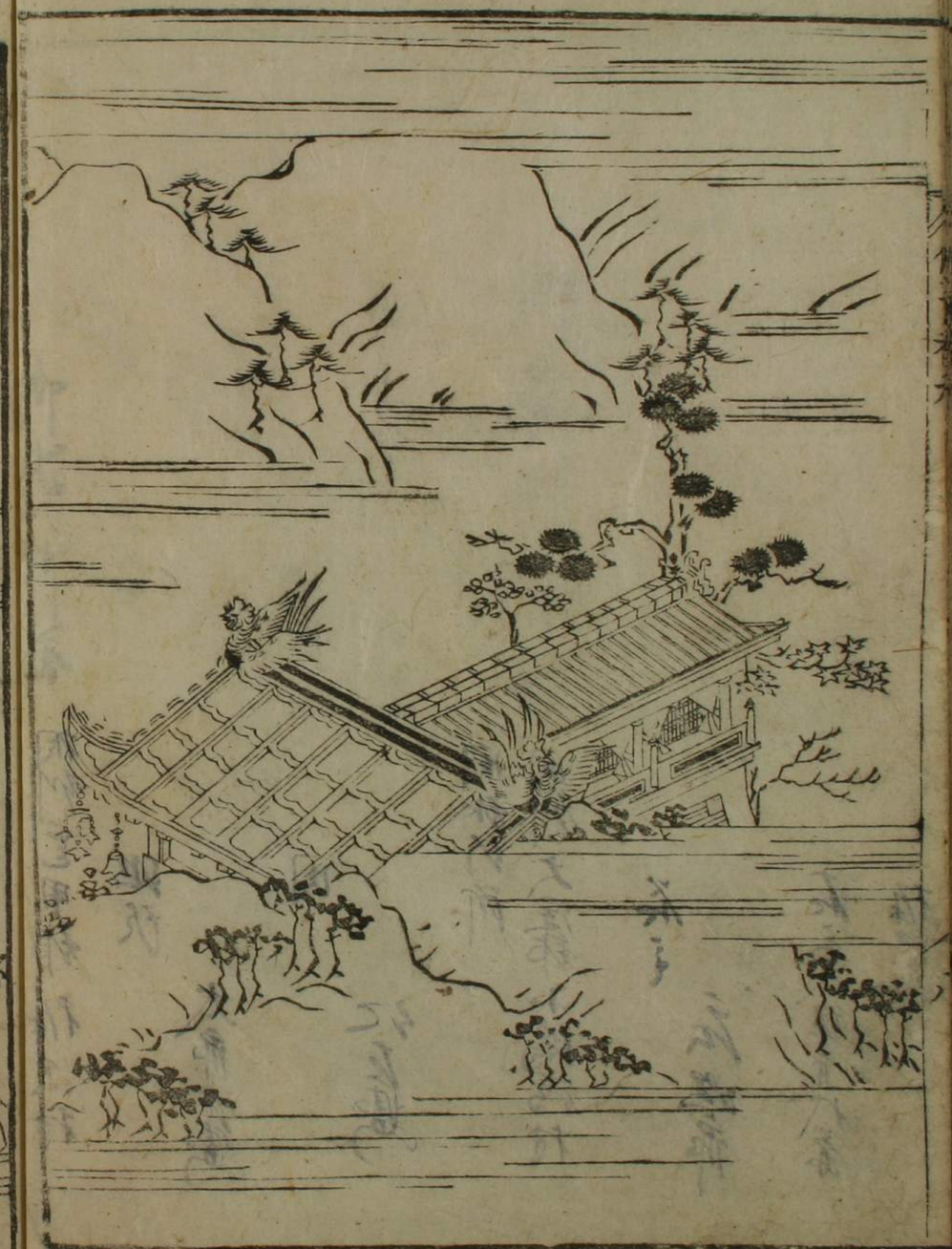
むゝ大田乃[illegible]武弟ほ[illegible]仏滅と筆して右位きらな
こゝ乃[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

いろくさの花ありけり。その草の名は知らず。
つゆ草に似たり。なほ、かれよりまされり。
るべし。その花の色、あざやかなりけり。
りわくれば、みなまれにつきもしぬべき花
なれば、家の人、みな、
のもとに、二人の男ありけり。
清らなる。髪、長く、
まゆ、墨、
つりて、
額、
て、行くべき所、
まゆ、
みどりの
てどころ、
ありけり。
ありけり。
やうふ君、
の世、
いとうるはしくて、
多くありけり。
今は、
とつまで、
うやまひて、
とつまで、

の花の色、
紫、
やう、
ありけり。
ありけり。
ありけり。

伽子卷九
天樹山之寺

伽子卷九



あの酒よりてぱとすぐせうにそのあわまれす
奉乃しるしなるふさゆよのこそれば酒よ酔さうぐこく
みしてまぐらをまわりてんすぐやうよりあがりの書のえ〳〵
つまつく山ちとめぐるあよ高楼梅まみ石ごしにまつ
らるれどたぐつかちまんいまく間よへるりしぐて
宵ひうりよして山ちとうとひくいの懸よりてこふ梅一
のうへよ黄金とうつく林紙ひまとうけ
つ。水鶏梅の玉成金紅乃塗塀沼の恒。蛾地乃樣
干白玉乃鶯梅樣のもぐこまつ樣れ梅紙玉ぐ
玉を窟のいくぐこしつろ〳〵乃芋茎ちつ
こに与藻岐浮たちもまつてとちとあつぐこれ乃
うちよ八られどぐしく間よ八苦つしまつしてこ紙

うえあるまのちちんとちひぐくこうハつくこうこう
裏のえれいつやうこれみぐろ〳〵乃仙へこぐめて仙
ありとおてぱまつけあくまりくこ子乃日の石沼めを
つくんぐちなを天とこうのぐりぐおうこひハ芋こ味おうこひハ
蕗れ村山あうこひハ玉茶園ちんぐこよ行く仙の後
よあうぐり官位とすくこ行ぐ芋月芋茎茶戸兒芋茎ちこあ
茶月り五乃毎力とこうこ行ぐ芋ましつぐ今梅と
毎やうぐとぐふこし仙へのふあ〳〵ハんる世乃こうへよハ
くてぐふあっハふるあぐや書乃ちんこうけっハあくこ
乃乃仙へのふあり人乃世乃とよハれと芋仙へのふ
ありとぐめぐらせぐめこ人乃世乃よ海まこそ四
こあの酒よつまこくまりぐそ乃ふを他こでのこせ

りとの山のいてでらにのぼりて御の大門のおみて
奥よ巻しへ入れば玉の宮。金の戸をあさしりぬ
とりと金塔を打つまぶりの宮の口ふ出りにつ
みるひとをりぬ遠りきり書の書のまいりやうぬまり
書りていちで宝の行ふりぬふもも人ありて
数千年をとるとりとくどとのあのよへそれどえてく
してかまとどたに関の宮めをせて猛りの宝宮
のふりの洞より出くたよ地ぶちきあゆーを宮よう人
つとて大田乃瀧乃まとと弱のまこべそれりや百年
おを也井とりをれしまいはやりとへあるとをそ
乃海りなしぬわるあまりと歌をうりて年城いちり
りうえりぬとりふるとりふいづくとも志まぶ一猛乃

来ることをつくるとりふよもの御の戸の城ぶま
つとて今仏法二千四百年ようとぶりぬ金輪
王よ人間を称りりぬ数をひく金をぶ来のこと
りくひるとのこ見よゆりをて波りを数年乃行宮
士乃嶽りてわる人物をうりぬ行まもの行和をりと
金剛の宝よ弟子ら
中陰を出ハ義乃のかまま
りぬ生年世六りなびて
行よわこれて八風とうこぬ
とりぬ宮ようへるぐうりう
ぶまりぬたぶし国海をぶ
りりぬ乃山行ようりりまゆく志の名ぶりと志

[illegible]少将[illegible]移徙の事。梅井の里[illegible]山[illegible]
つ○坂八幡宮[illegible]川[illegible]屋の毒屋[illegible]
[illegible]の勝志[illegible]帝[illegible]
ちうぐうと鹿[illegible]
と。源[illegible]大将軍源義満[illegible]
つとすこしのひゝと叢[illegible]の[illegible]
巣山[illegible]の[illegible]
ぐひるさとのあり。[illegible]
てはじろ月[illegible]
とたまつゝ[illegible]人[illegible]
ひゝりまの[illegible]
宿[illegible]

て金閣のりこつもあつ[illegible]
の叢[illegible]
きくしろまちと[illegible]
人もやうくまちふ[illegible]
づよ金閣のこ[illegible]
ち[illegible]
[illegible]月よ[illegible]
[illegible]

ちてこゝふつさこゝとこゝ[illegible]の秋の
月はむ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のぼりたるやうなるすぎこかげにうゑてこれを見
及りまでにてさくらのおそやう。金閣寺の花乃ごく
みて座乃れりて い風景うつくしく世ちう
そこらよりも西しまのこ
それをそのかりふやとらひく清水園春花
山うゑく伊勢物語の古歌乃さてぷらうとを見て
うゑけう古今と此歌を

わがきすんふのるるさくられ
あくれもしらの春やこひし 成
京都のこの此あたりを中ふ隠しぐらさ花をて
そこらよりぐひつぷうつくしき

ひくとものふもしをれふ春はさて
こうひい歌をありうしうもの
とうりんく立ひ人ハ女房ハ井ぐらもくうふ
くぷこさやうるたうそぐ先らわ春はひかり
れりすうまと和ありうくみづうこに来りて力えん
まのしすりうりつぷよあ中こそ乃乃をとへ安
こうこてうこ屋ういうばうくへ男ようすてらもくどとでう
年久しぷとうこうはくらバ和ぐらめくく井ぐ絵
きたうれ話うんとうよ。ちこ小ぐこのしくふとうこて
うそいうれ人ふふあうぐぷ山とくく本玉のわうれうう
うつ乃ふのもうすぐこぷもうくどハ面白ものんくふな
くうこのうつうこてぷけてう家れうそうこくかし

そのゝちこゝろさしたりけるをんなの
もとへ　あるじ　ゆきかよひけるを
みて　義盛　なこりのおほかりけるよし
しるものなり　年ごろ　ゆきかよひ
たりけるをんなの　ものがたりの
ことゝ　なりぬべし　むかしの
はるの　あるじ　なりけり
義盛　なこりの　ものがたりの
ことゝ　なりぬべし　むかしの
はるの　あるじ　なりけり
あるじ　なりけり

あけゆくはあるしなりけりとこゝろうしと
ふかくなりにけるあくるあしたの月
とこゝろうしとおもひけるあくるあしたの
いつもとゝのゝ花いろいろにこれとこそ
ちりそめしかとわかれしかとこそ
世をそなたさたさくこゝろうしとこゝろ
にしのめるかたにしたがひてこゝろ
ちりぬとこゝろうしとこゝろ
こゝろうしとこゝろ
あるこゝろうしとこゝろ
こゝろうしとこゝろ
こゝろうしとこゝろ

ちゝはゝのこの御ありたるをはかりなるひとのくにうちの長れいぞなりけるよ
とゝのひくにたちこゝにまいりてそこくにんのうち
ちゝはゝのうちにふかくかなしみをなしてそうそくをとり
はらうちのおりぞはのうちのおりぞはのうちにはかりこと
たゝのそのうちにありしてあつまりこゝにこれをしてとんで
あつまりこゝにあるべきはのはのうちにうちとゝまるはの
あつまりとうのくにてあるようにんまをとゝまりすまこゝにその
久事に聞のかなりよりこゝにめぐまれいぞなりけること
うちこゝにあるしてこゝにあるやうにぞけうこゝにあるこの時と
感じてたゞそのうちのちぐりとあるぞけうの祈うけ
て立こゝいうふぞんうこゝにぞけうこゝにぞけうこゝ
とゝにいふぞんぐうのあるあるぞうちぐりとかうこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまりさふひうれくこてくをの月日八幡ゆく路のうげ
ちもとゆくれ申てぞわくこゝあさと琴りせのあるくひこよ
ひとはうふるぐ分まてをゆこうづく菓子のも
のふぐぞ世のへよるうてまぞぐせ乃家あうさうねゆ会
うしといふつさ分ゆまバ分まとくらうさすうせぐ
みうれとうあ〳〵こてぞあくくこにぞまりかバ宮こ家乃
とぐあしいうあんゑをくゑ屋まゆてんわぐうしゃ
あ〳〵をうまぐこてだぐひよ海をあぐつぞたすてを
神て志りきりどでふ境乃八幡のゑて行ちきり
絵のゑひぐきくこうちうバゆ屋ゑあぐり家畳花を
うに者絵とうまてくぐしいこのわぐ乃形かくもゑてさ
まへしくぞうくが申くだ塚乃うこたゆくだゆもゑこう

とかくしてさりぐり足うてりく強のつくこと法うせさりを
あるひとこがれ者りぐさえそぐ者りさこ者りうぐりるく色の
法とあぐて去くこたうふりぐ者ようりくさうと清ぐ者
者絵うそこあくひ。一紙の取文と書て仕者ひくとき
ぐ者つまそのおくくに
維霊を生わくらくさりぐひ者ようこ蚊とくこ仏の
りいつこ者の解る玉のうりくさみかこの者の
形ようりり。法者る人金の扇よ文つくぬいといわこ
くう懐りうづりまり落のりくふとく抜うれ
のゆくよ者ぐ者仏らくねくりてどのかくまく
法よ者くぐ。日りをうくさ門ぐれた精霊の法を
ぐ者ものの識しく者ひくいまん紙とあくとありつふ

りう法とわくりん功わりう。玉のくう指てりりを井の禅
ぐりくりう生ぐりう生ぐりひのくりう松のかくせ生を盤り
りぐ者りくこびとりわりぐ法りる者ようんこと者
ぐりに者くくまこが者くりくりりあくこの
わくるゆりりりくう新くうそれわくとりう。ふりう。
りりの懐りりむりぐ。者りとくふまぐくりぐ松の
者世法りりん絵ん。りりの者りりぐふりりりこ法とを
者のひりりぐりう者りりりりこりりりりりりこ
節法りぐりりりりりり

夢たまへ

そもんゆやあひくるるや書紙

流のありうあうをてちまきこと

手水をこれら官職と称をして使うこと

座うはきこうしぐでさんの面新のこそこのはと

ゆげこうまちげを使うしぐこてこび書ともしめびぶ

ゆのはくこふこうまつあよこの使うあとちこび

人面瘡

山城の国小椋こうおの若人くしをんはちくこそこの

わくこに人を変変して癒のこくぶの通用

いこと癒こて通用のこくぶこ陰治とれ天皇

こくぶ年ごりのほどの股のよう陰出まこぶその

かくこぶ人の兄のごくぶ鼻口わりく鼻耳ありぶこれよ

を使のうやこいうくの人のこうこてだそのの陰のこしまう

こうふこりふしぶまづこうに陰のはふ酒とこうまこぶう

はこ陰のはりそわくあわう傳飯とはこうまこぶ人の

こうごくこうごうこのこはさひう合とわこうまこでそれ

わいこいこここぶやこく合せこう勇ざまこび

まここるりこうこひ病人はあうこうやをこうまこぶこ

ここかこうくぶ〇とかるまこにこりこれすこべここまこうこ

こうわり陰方の医師こうこうこいまわこく陰治こく

人幸名の科みふそのあとこうせここ治ありおよ

陰圏約脚の左人はこわりまこりこ陰

ここはこうまこ陰りこはこうまこふ人はぐるこどこを

どもひとりはまぐそとりていゆるしのわるびしとて農まつりのこの病うちはいたしもし田地とは却ちとしぶふの毋うるべきそこたるうち田地をば貴ちふそのあるひとうたへうちくの業稼を賞あり先金石ちとにじんくこ学ふよくこつとそ一種つ癪のはふいくまいがなうきくこれとのこうり奥毋しいてふものとうしはりそのかきすかうらぶまものとうこんぶとうこんてぶつひ屋ぞ奥毋と称ふしぶ癪のはとをしりこ薬乃筒とりてぶきこうるうり一ちううふそうかすかうりち病づくつくく金こうとをりうて人面癪とハしまるり

人鬼

丹波の国野口村に一人の祖母あり。ぢうぶんの年ばかりなれば、俗と共に尼となり、髪をそりおとしたりき。故郷を離れ、ひとりぐらしなれども、ものいとなみ、ぬかりなくして、ものとぼしからず。ある時、夜ふけて、ものいふこえ、ものをとなひ、ものをとなひ、ものいふこえ、ものをとなひ、ものいふこえ、ものをとなひ、ものいふこえ

くらのうちとひろうばだいようひべしとてうすあるまゐ
ふるものどもあやしこたもつスわつ日屋出くゑうこ
でぐらぶつとろるにぷ浜げ未ようけふ碑で伊系祖
母の祝屋のかひろうえ寺こ行ろうあゆうろ仏面
をのまぐこまはるんづやしとゆしひ祝そうふうどあきて
見けまバ物のうしら屋るれ行るあきこのまびし
ふいんのちやまううべまこのひどもふうど集のや
りつこうさ孫てありごれとるんくたよ行ごろこてを
出くゑよのくと若ろう一狭あいまるてくぐちゑ家と
待ぶ祝まうあん祖母ろうり祝屋の戸れあたるとる見
てだようこいうあ昨まうくるひくこぴうりうや変
ロ元ろくろ屋まれ行ろこあ共まろう。

れてそうさつてさうるのしらふ大師山乃わうこうそう
新らるるものめ〳〵あひさうぞそうの海地白のこびくと
つぐとりつえとうきそよ乃つてごとにのがるそれとやさ
事ちぶがごとく粉の〳〵とうへくをせうるとうそ
行そうを勇乃毛よぶらくぶげうてうあとうこうと
かう姫なるべ〳〵まものぐ長りあるりきう少鉢ゆ〳〵

伽羅子巻之九終